

各位

上場会社名 グラウンド・ファイナンシャル・アドバイザー株式会社  
 代表者 代表取締役 佐藤明彦  
 (コード番号 8783)  
 問合せ先責任者 取締役 平野公久  
 (TEL 03-5532-1031)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想につきまして、平成21年10月30日付「連結決算開始に伴う平成22年3月期連結業績予想及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	230	△142	△139	△113	△7,547.52
今回発表予想(B)	142	△210	△220	△175	△11,665.55
増減額(B-A)	△87	△68	△81	△62	
増減率(%)	△38.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	117	△62	△59	△59	△3,952.74
今回発表予想(B)	78	△100	△98	△93	△6,222.64
増減額(B-A)	△38	△38	△39	△34	
増減率(%)	△33.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	108	△77	△75	△257	△16,491.84

修正の理由

#### 【連結業績】

当社グループは、平成21年10月に21世紀アセットマネジメント株式会社の子会社化及び中銀法律事務所との中国関連事業に係る業務提携を行い、「金融モール」の実現及び充実に取り組んで参りました。「金融モール」とは、金融に係る業務に携わる企業のうち、専門性・独自性を持ち、良質な金融商品・サービスを提供し得る個別企業(あるいは専門子会社)が持つ機能をモール内に集約し、一定の規模と能力を備えた企業グループを形成した上で、1. 顧客に対しては適切に選択された良質な金融商品・サービスを提供し、2. 個別企業においては相互の有機機能補完を行うことで業務の効率化を図り、業容拡大を目指す金融ビジネスを拡大するための新たなビジネスモデルであります。

#### (運用事業)

運用事業につきましては、21世紀アセットマネジメント株式会社が担当しており、平成22年3月期下半期中に年金基金との一任契約1件と公募投信1本の新規設定を行いました。想定しておりました新規私募ファンドの設定ができず、これによる投資信託の直接募集の手数料収入を計上することができませんでした。また、新規設定した公募投信の販売が振るわず、運用収入が見込みよりも伸び悩む結果となりました。これは、業界全体における投資信託の販売が、21世紀アセットマネジメント株式会社において取り扱いの少ない外国為替関連商品や新興国債券中心の運用商品に偏ったことに加え、新商品への投資家のスタンスが慎重であったことが主な原因となります。これらの影響により、運用事業における営業収益につきましては、64百万円となります。

#### (助言事業)

助言事業につきましては、当社が担当しております。当社の主要業務であるストラクチャリング業務収益においては、インリックス株式会社との業務提携による不動産物件周りのサービス拡充や、資産家の資金をデット性の投資資金として取り込み不動産へ共同投資を行うという新しい不動産投資スキームの開発等を行い営業収益の確保を図りましたが、例年に一度度見込まれる期末案件の受注を行うことが出来ず、また新規クライアント獲得も停滞したことから、大幅な落ち込みとなり、営業収益、営業利益、経常利益及び当期純利益については、予想を下回る見込みです。助言事業における営業収益につきましては、見込んでいたストラクチャリング業務収益の計上が困難となったため、78百万

円となります。

これら「運用事業」及び「助言事業」の状況に鑑み、営業収益予想を142百万に修正いたします。利益面につきましては、営業費用及び一般管理費の削減(家賃減額等)に努めましたが、上述のとおり営業収益の減少により、営業利益、経常利益、当期純利益の予想をそれぞれ修正いたします。

今後、当社といたしましては、新規事業として掲げた「金融モール」の拡充を実現していくことで、営業収益の回復を図り黒字化を達成することが最重要の課題であると認識しております。このために、主力業務であるストラクチャリング業務においては、アセット・マネージャーのアウトソースニーズの取り込みや、前期に開発した投資家の資金をデット性の投資資金として取り込んだ上で不動産へ共同投資するためのスキームを活用し、案件獲得を図って参ります。また、収益基盤を確固としたものにするために、助言事業の対象をストラクチャリング業務以外にも拡張して参ります。具体的には、不動産担保借入ニーズを持つ企業向けの資金調達に関する助言業務、中銀法律事務所と協業して行う日系企業の中国事業に対する助言業務、成長企業に対する事業拡大、経営管理体制構築に係る助言業務などを積極的に進めて参ります。これら助言業務の成果を最大限享受するための企業向け投資も検討して参ります。

当社が平成21年10月に子会社化した21世紀アセットマネジメント株式会社につきましては、平成22年4月23日にネオオンラインホールディングス株式会社へ全株式の譲渡を行っており、これにより当社は連結決算から単体決算へ移行することとなります。

**【個別業績】**

個別の業績予想につきましては、(助言事業)と同様の理由によるものであります。

なお、配当予想の修正はございません。

(注)上記の業績予想は、現時点での入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上